

霞ヶ浦における特定外来生物オオバナミズキンバイ
(アカバナ科) の記録

伊藤彩乃*・小幡和男*・吉川宣治**・内山治男***・西廣 淳****

(2017年10月18日受理)

Records of *Ludwigia grandiflora* (Michx.) Greuter et Burdet subsp. *grandiflora* (Onagraceae) Collected in Lake Kasumigaura, Ibaraki Prefecture, Central JapanAyano ITO*, Kazuo OBATA*, Nobuharu YOSHIKAWA**,
Haruo UCHIYAMA*** and Jun NISHIHIRO****

(Accepted October 18, 2017)

Key words: Ibaraki Prefecture, invasive alien species, Lake Kasumigaura, *Ludwigia grandiflora*, Tsuchiura city.

オオバナミズキンバイ *Ludwigia grandiflora* (Michx.) Greuter et Burdet subsp. *grandiflora* (アカバナ科, Onagraceae) は、南米および北米南部原産の多年生の水生植物である。国内では水質浄化や観賞用として流通していたものから逸出して繁茂し、2014年に特定外来生物に指定された(角野, 2014)。2007年に兵庫県加西市のため池で野生化が確認され(須山ほか, 2008)、その後、琵琶湖南湖で異常繁茂し(田淵ほか, 2013)、和歌山県でも報告例がある(環境省, 2016)。茨城県においては、土浦市霞ヶ浦の北西の湖岸(土浦市手野町出島排水樋門, 田村川排水路)(図1)にて、2017年5月4日に著者の一人である吉川によって発見された。

本記録では、2017年6月12日の生育状況調査と、2017年7月30日の結実状況確認について報告する。

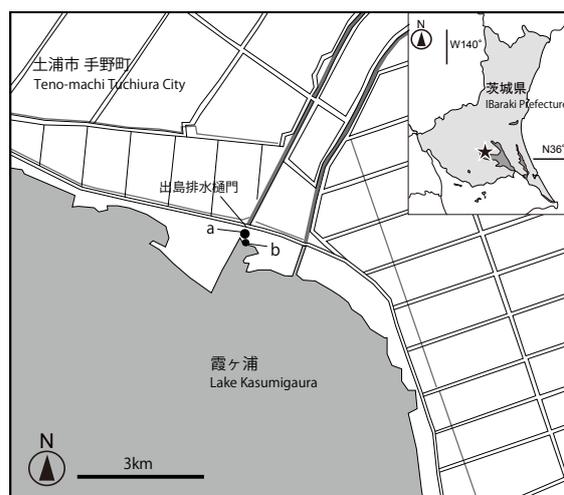


図1. オオバナミズキンバイ (*Ludwigia grandiflora* subsp. *grandiflora*) の生育地. a: ボート停泊所横の排水路内の群落, b: ヨシ群落内から水際にかけての群落.

Fig. 1. Location of *Ludwigia grandiflora* subsp. *grandiflora* habitat. a: Communities in a ditch beside boat docks, b: Communities from waterfront to internal reed communities.

*ミュージアムパーク茨城県自然博物館 〒306-0622 茨城県坂東市大崎700 (Ibaraki Nature Museum, 700 Osaki, Bando, Ibaraki 306-0622, Japan).

**〒300-0825 土浦市霞ヶ岡町31-37-2 (31-37-2 Kasumigaokamachi, Tsuchiura, Ibaraki 300-0825, Japan).

***茨城県生活環境部生物多様性センター 〒310-8555 茨城県水戸市笠原町978番6 (Ibaraki Biodiversity Center, 978-6 Kasahara, Mito, Ibaraki 310-8555, Japan).

****東邦大学理学部 〒274-8510 千葉県船橋市三山2-2-1 (Department of Science, Toho University, 2-2-1 Miyama, Funabashi, Chiba 274-8510, Japan).

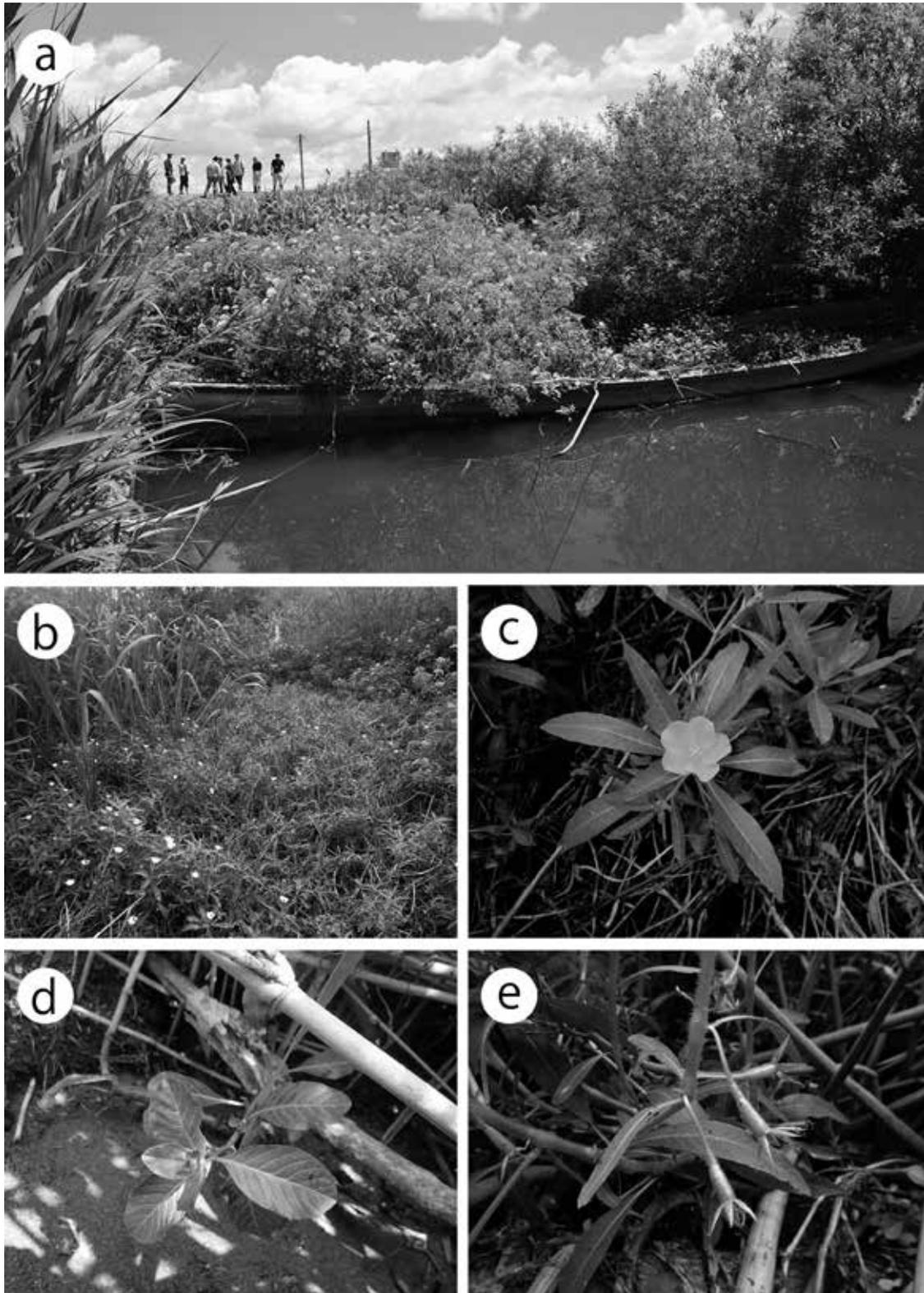


図 2. 茨城県土浦市手野町に生育するオオバナミズキンバイ (*Ludwigia grandiflora* subsp. *grandiflora*). a: 生育地, b: 排水路内にマット状に群生する群落, c: 花 (黄色, 直径約 4cm), d: 水際のヨシ群落内で茎を伸ばした個体, e: 若い果実 (緑色, 長さ約 2 cm), (a-d: 2017 年 6 月 12 日撮影, e: 2017 年 7 月 30 日撮影.)

Fig. 2. *Ludwigia grandiflora* subsp. *grandiflora* growing in Teno-machi, Tsuchiura City, Ibaraki Prefecture. a: Habitats, b: Communities growing thickly in a ditch, c: A flower, yellow, about 4cm in diameter, d: Plants growing in reed communities on the waterfront, e: Fruits, green, about 2 cm long. (a-d: Photographed on 12 June 2017; e: Photographed on 30 July 2017.)

オオバナミズキンバイは、堤防の直下の入り江に作られたボートの停泊所横の排水路内に、約 10 m 四方に一面に群生していた。停泊所に停められた、使われていないボートの中まで進入していたが、そこで群落が途切れていた（図 2a）。また、付近のヨシ群落内や水際にも、数個体が点々と生育していた。しかしながら、その周辺では他に生育が見られず、広く分布が拡大していくようすはみられなかった。

ボートの停泊所横の排水路内では、オオバナミズキンバイは、沈水部が水中に絡まるように茎を伸ばし、マット状に密に生育しており（図 2b）、そこから水上に伸びた茎に多数の花をつけていた（図 2c）。約 1 カ月後には、開花個体の一部が若い果実をつけていた（図 2e）。水路内にはオオバナミズキンバイに隣接して、ドクゼリ *Cicuta virosa* L. やマコモ *Zizania latifolia* (Griseb.) Turcz. ex Stapf が群生し、ネズミムギ *Lolium multiflorum* Lam., ホソムギ *L. perenne* L., クサヨシ *Phalaris arundinacea* L., ヨシ *Phragmites australis* (Cav.) Trin. ex Steud., コモチマンネングサ *Sedum bulbiferum* Makino, タチヤナギ *Salix triandra* L. subsp. *nipponica* (Franch. et Sav.) A.K.Skvortsov, ツルマメ *Glycine max* (L.) Merr. subsp. *soja* (Siebold et Zucc.) H. Ohashi, ノイバラ *Rosa multiflora* Thunb., ゴキヅル *Actinostemma tenerum* Griff., イシミカワ *Persicaria perfoliata* (L.) H. Gross, アレチギシギシ *Rumex conglomeratus* Murray, ギシギシ *R. japonicus* Houtt., ヤエムグラ *Galium spurium* L. var. *echinospermon* (Wallr.) Desp., アメリカセンダングサ *Bidens frondosa* L. が生育していた。

ヨシ群落内から水際にかけては、オオバナミズキンバイの小さな個体がヨシの隙間から伸びながら生育しており（図 2d）、開花個体は確認されなかった。ヨシ群落内には、ヨシのほかに、キシノウエ *Iris pseudacorus* L., ウキヤガラ *Bolboschoenus fluviatilis* (Torr.) Soják, カサスゲ *Carex dispalata* Boott, スズメノチャヒキ *Bromus japonicus* Thunb., クサヨシ, マコモ, ナヨクサフジ *Vicia villosa* Roth subsp. *varia* (Host) Corb., カナムグラ *Humulus scandens* (Lour.) Merr., ゴキヅル, アレチウリ *Sicyos angulatus* L., オオイヌタ

デ *Persicaria lapathifolia* (L.) Delarbre, アレチギシギシ, ノミノフスマ *Stellaria uliginosa* Murray var. *undulata* (Thunb.) Fenzl, シロネ *Lycopus lucidus* Turcz. ex Benth., アメリカセンダングサ, タウコギ *Bidens tripartita* L., ヒメジョオン *Erigeron annuus* (L.) Pers. が生育していた。

オオバナミズキンバイは、茎の断片から発根し、繁殖力が非常に旺盛で、日本だけでなく、ヨーロッパやアメリカでも侵略的な外来種となっている。希少種の生育地を奪うほか、絶滅危惧の在来種 *Ludwigia peploides* (Kunth) P. H. Raven subsp. *stipulacea* (Ohwi) P. H. Raven などと交雑し、遺伝的攪乱を引き起こすことが危惧されている（特定外来生物等分類群専門家グループ, 2014）。今後は早急に、河川管理者が主体となって駆除作業を行い、経過を観察していく予定である。なお、本調査で認められた生育地は、堤防から降りてすぐのところであり、人が立ち入りやすい場所であることから、人為的に持ち込まれた可能性もある。

今回採集されたオオバナミズキンバイの標本 (INM-2-097948, INM-2-097949) は、ミュージアムパーク茨城県自然博物館に収蔵されている。

引用文献

- 角野康郎. 2014. ネイチャーガイド 日本の水草. 326 pp., 文一総合出版.
- 環境省. 2016. 日本の外来種対策 <https://www.env.go.jp/nature/intro/2outline/list/L-syo-13.html>
- 須山知香・佐藤杏子・植田邦彦. 2008. 侵略的水草 *Ludwigia grandiflora* subsp. *grandiflora* (新称: オオバナミズキンバイ、アカバナ科) の野外生育確認およびその染色体数. 水草研究会誌, (89): 1-8.
- 田淵智弥・田中周平・藤井滋穂・辻直亨・伊藤依子・水谷沙織・福田真以・坂口理歩・西川博章・村上泰三. 2013. 外来植物オオバナミズキンバイ *Ludwigia grandiflora* subsp. *grandiflora* の琵琶湖南湖抽水植物群落への侵入状況に関する調査研究. 環境衛生工学研究, 27 (3): 87-90.
- 特定外来生物等分類群専門家グループ. 2014. 第 6 回 特定外来生物等分類群専門家グループ会合 (植物) 議事次第 資料 2 <https://www.env.go.jp/nature/intro/4document/sentei/plant06/index.html>

(キーワード): 茨城県, 特定外来生物, 霞ヶ浦, オオバナミズキンバイ, 土浦市.